



Title	井戸さん ありがとう
Author(s)	逢坂, 隆子
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 14-15
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/100722">https://hdl.handle.net/11094/100722</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 井戸さん ありがとう

逢坂 隆子

元四天王寺国際仏教大学大学院教授  
元 NPO ヘルスサポート大阪理事  
NPO 訪問看護ステーションひなた理事長

井戸武實様の突然のご逝去、ご家族の皆様はどんなにか驚かれ、寂しくなられたことでしょう。

私は約 20 年間、大阪府の保健所に勤務していました。井戸さんと一緒に保健所で働いたことはありませんが、井戸様の仕事にかける熱意についてのうわさは聞いていました。

2000 年頃、大阪市内にはホームレスが 1 万人いるといわれ、特に釜ヶ崎では、失業した日雇い労働者が大勢野宿していました。大阪府監察医事務所と共同で、2001 年 1 年間の大阪市内の野宿者と簡易宿泊所投宿中の者の全死亡者 294 例について調査しました。死亡時平均年齢は 56.2 歳と若く、中でも結核による死亡が極めて多いことがわかりました。

そこで厚生労働科学研究費により、釜ヶ崎のホームレスを対象に「生活と健康の調査」を実施したところ、結核検診受診者のうち、2%弱が要医療と判明しました。要医療結核患者が受療困難だとしてあげる様々な問題（犬や猫を飼っている。自分の自転車や荷物を入院中どうするか等）を何らかの形で解決し、要医療結核患者をすべて治療に結びつけ、1 年間の入院期間中も季節に合った衣類を持って見舞いに行くなどして、全ての要医療結核患者の入院治療を全員終了させることができました。

その頃、兵庫県で、住民検診に C R 結核検診車（兵庫県健康財団が運営。胸部 X 線撮影後、すぐその場で診断可能）を使用していることを知り、見学に行きました。診療放射線技師の井戸さんならよくわかるだろうと思い、同行をお願いしました。

当時、釜ヶ崎では、大阪市が月 1 回午前中 10～12 時にあいりん総合センター 1 階で胸部レントゲン検診車による結核検診を実施、検診後数日たってから、あいりん総合センターの壁に「精密検診を要する者の受診番号」を紙に書いて貼りだす方式がとられていました。

2005 年 9 月、兵庫県健康財団のご好意により、釜ヶ崎の三角公園横で C R 結核検診車によるホームレス検診を、大阪で初めて実施することができました。公園で炊き出しをしている支援団体、ふるさとの家、公園横のシェルター管理者などに協力してもらい、西成労働福祉センター、大阪市保健所、大阪市立更生相談所、大阪社会医療センターの職員なども見にきました。

私たちは、C R 検診車を釜ヶ崎のホームレス結核検診で使えたらどんなにいいだろうと思い、保健所を所轄する部長に直接お会いし、C R 結核検診車の購入をお願いしたところ、「それはいい。すぐ購入しよう。」ということになりました。

2006 年 4 月から、大阪市は釜ヶ崎で C R 結核検診車の新規運用を開始し、検診回数は月 1 回から月 3 回に増えました。同時に大阪市から釜ヶ崎の結核対策に協力してほしいという申し出があったので、その受け皿として NPO 法人 HEALTH SUPPORT OSAKA (NPO HESO) を設立しました。HESO の事務局長は、ちょうど定年退職される井戸武實さんをお願いしようと、皆の意見が一致し、

逢坂が井戸さん説得を担当することになりました。当時、井戸さんが勤務しておられた大阪府藤井寺保健所に行き、5～6時間も説得を続けました。すでに定年後の勤務先も決まっているのでは、と思いつつながら、無理を押してお願いしました。

NPO HESO の事務局長として井戸さんは、釜ヶ崎の結核対策（①C R結核検診車にかかわること：検診会場の受けつけ、発見された結核患者の治療開始の説得 ②釜ヶ崎の訪問型 DOTS など）の中心となって活躍してくださいました。元大阪府保健所の保健師さんたちも協力してくださいました。NPO HESO の事務所は、釜ヶ崎支援機構のご厚意により、支援機構事務所前の建物 2 階を使わせてもらいました。皆が土足で事務所に入ってくるので、ずいぶん部屋が汚れたと思いますが、井戸さんはいつもきれいに掃除してくださいました。

井戸さんをはじめとする NPO HESO の活動の結果、釜ヶ崎の結核罹患率が半減しました。しかし、その後の方針が NPO HESO と大阪市保健所との間で大きくくいちがったため、受託を終了しました。

今でも、釜ヶ崎の日雇い労働者やホームレス支援者たちは、井戸武實さんをよく覚えていて、「あんなことをしてくれた。こんなことも教えてくれた。」と言っています。

（NPO 訪問看護ステーションひなたの事務所は釜ヶ崎の中にあり、元日雇い労働者や元ホームレスの生活保護受給者を対象に訪問看護サービスをしています。）